TEPCO 東京電力通信 第28号 2025年8月発行

当社は新潟県の皆さまへの理解活動の中で、原子力発電所の運営を「東京電力に任せておいて、本当に大丈夫か」というご意見をいただいております。
原子力事業者として「信頼性」「適格性」に関する声を真摯に受け止め、社外の視点や知見を発電所の運営に取り入れ、新たなガバナンス（管理・監督）体制を根底から強化します。

POINT 1 具体的にどのようにガバナンス（管理・監督）体制を強化しますか？

- 社外のさまざまな分野の専門家と当社役員が一体となって、発電所の安全を追求する新たな組織として**「柏崎刈羽原子力発電所運営会議（略称：KK運営会議）」を設置します。**
- 外部から評価・助言いただくようなこれまでの仕組みとは異なり、**KK運営方針を策定するプロセスや現場に入り込み、計画策定の段階から社外の視点や知見を持って議論し、提言と実践の両輪で発電所の自律的な改善を強化します。**
- KK運営会議は、当社の取締役会に対して直接提言できる権限を持ち、取締役会はその提言を最大限尊重します。

社外委員

他電力経営者	国内専門家	海外専門家
東北電力・中部電力 原子力経営経験者 （2名）	学識者 地域経営者など （3名）	外国規制部門経験者 原子力技術者 （1名）

社内委員

KK運営責任者
代表執行役社長
原子力・立地本部長
柏崎刈羽原子力発電所長
新潟本社代表

「KK運営会議」
発電所の新たなガバナンス（管理・監督）体制

地元本位の経営
地域が望む姿で
発電所が運営されているか

現地・現物の評価
発電所の安全性向上の取り組みが
信頼につながるように行われているか

POINT 2 どのような方でKK運営会議が構成されていますか？

- **委員構成は、多様な経歴を持つ社外委員が過半数を占めるよう選任しました。（10名中6名が社外委員）**
- 議長には、東北電力株式会社ご出身で原子力発電所運営はもとより、地域共創・貢献のご経験とご見識をお持ちの佐藤 敏秀氏にご就任いただきます。
- 委員には、新潟県に根差した地域団体の代表者・経営者の方、国内外の原子力技術・規制や組織マネジメントなどの専門家を選任し、安全を追求する自律的な改善を継続します。

「KK運営会議」

社外委員

佐藤 敏秀（さとう としひで）氏（議長）
元 東北電力株式会社
執行役員 東通原子力発電所長
上席執行役員 青森支店長

水谷 良亮（みずたに りょうすけ）氏
元 中部電力株式会社
取締役専務執行役員 浜岡原子力総合事務所長
（当社 執行役員 柏崎刈羽原子力発電所長補佐 2022.4～）

【柏崎市在住】
桑原 保芳（くわばら やすよし）氏
荒浜21フォーラム会長
元 柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会 会長

伊丹 俊彦（いたみ としひこ）氏
弁護士、元 大阪高等検察庁 検事長
（当社 柏崎刈羽原子力発電所
核物質防護事案に係る改善措置評価委員会 委員長 2023.6～）

【新潟市在住】
菊野 麻子（きくの あさこ）氏
Kアプローチ代表
フリーアナウンサー

チャールズ・カストー氏
元 米国原子力規制委員会（NRC）上級管理官
（当社 原子力改革監視委員会 委員 2024.4～）

社内委員

小早川 智明（こばやかわ ともあき）
代表執行役社長

福田 俊彦（ふくだ としひこ）
原子力・立地本部長

稲垣 武之（いながき たけゆき）
柏崎刈羽原子力発電所長

柿澤 幸彦（かきざわ ゆきひこ）
新潟本社代表

柏崎刈羽原子力発電所の

安全性を向上させる取り組み

Vol.06 ｜ 放射性物質の放出を抑制

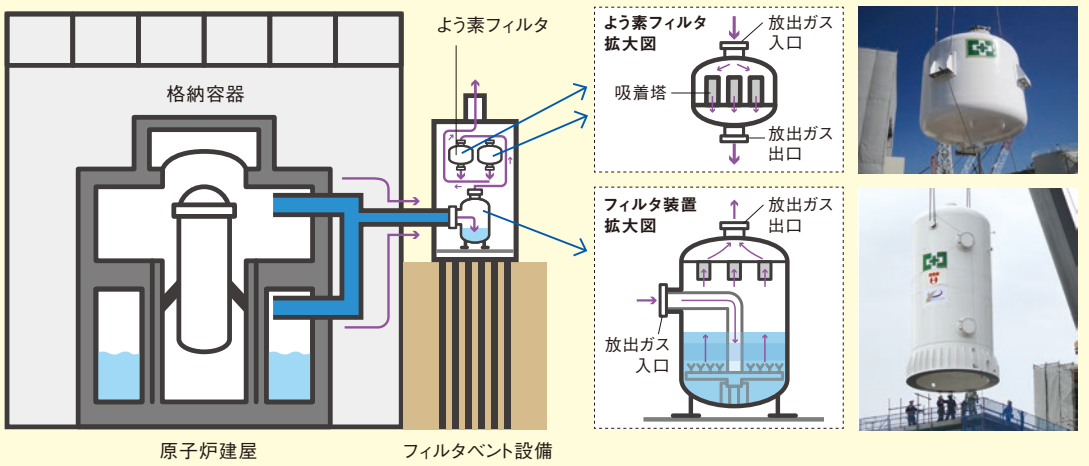
・当発電所の安全性を向上させる取り組みについて連載で紹介しています。
・福島第一原子力発電所事故では、巨大な津波により、電源や原子炉を冷やす機能を失いました。
・その結果、原子炉と格納容器が高温・高圧となり破損、放射性物質を大気中に放出するとともに水素爆発を招いてしまいました。
・福島第一原子力発電所事故の反省と教訓を踏まえて、想定外の事態にも備えて徹底した安全対策を講じ安全性を高めています。
・今回は、万が一の事故が起きた場合に備え、当発電所の「重大事故による放射性物質の放出・拡散を最小限に抑えるための対策」と「水素爆発を防ぐための対策」を紹介します。

所長 稲垣（いながき） 武之（たけゆき）

POINT フィルタベント設備

万が一、炉心が損傷するような事故に至った場合でも、新設配管や代替熱交換器車などを活用し、約10日間は放射性物質の大気中への放出を回避します。
格納容器内の気体を大気中に放出せざるを得ない場合に備えて「フィルタベント設備」を設置し、可能な限り放射性物質を取り除き、放射性物質の大気中への放出を大幅に抑制します。

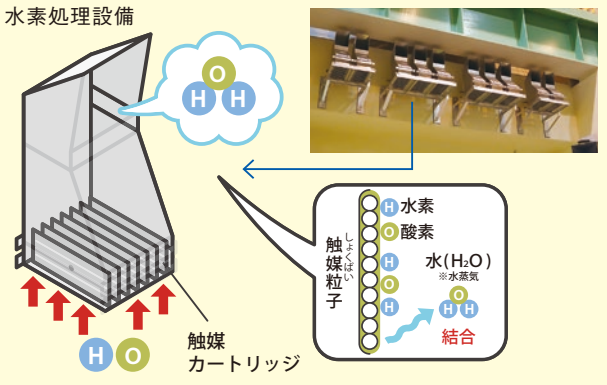
CHECK☑
フィルタ装置内の水と金属フィルタを通すことで、放射性セシウムなどの粒子状の放射性物質を1000分の1以下へ低減（99.9%以上除去）します。
また、よう素フィルタを通すことで、気体状の放射性物質のうち放射性よう素を50分の1以下へ低減（98%以上除去）し、大規模な土壌汚染と避難の長期化を防ぎます。



POINT 水素処理設備（爆発防止設備）

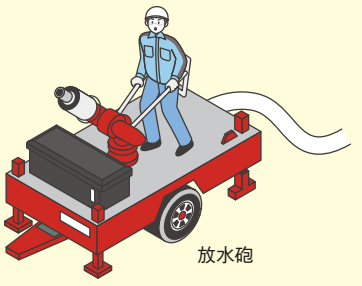
万が一、炉心損傷によって炉心から発生した水素が原子炉建屋に漏えいした場合に備え、水素濃度の上昇を抑える設備です。水素と酸素を結合させて水（水蒸気）に変えることで、原子炉建屋の水素爆発を防ぎます。

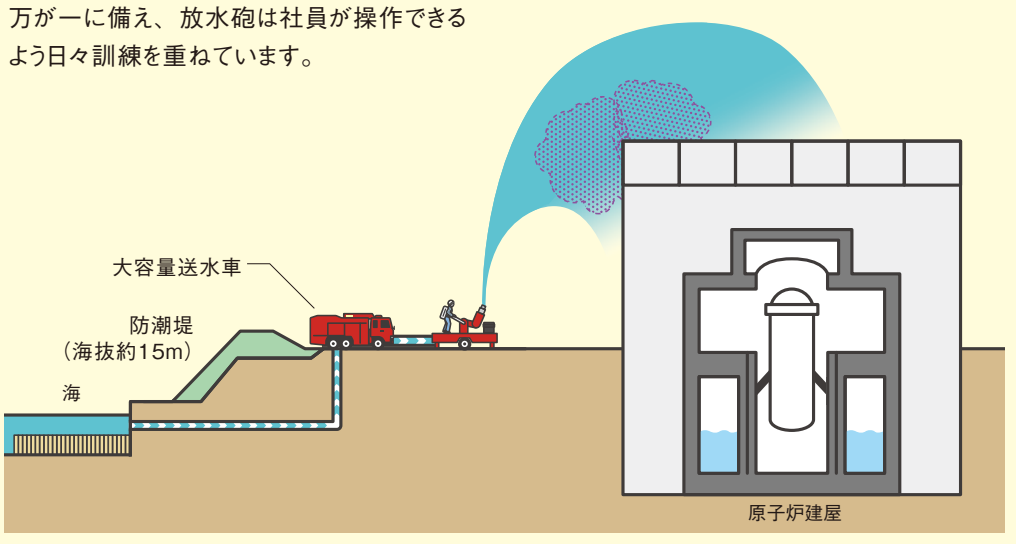
CHECK☑
電気を使わずに触媒の働きを利用します。



POINT 大容量送水車・放水砲

原子炉建屋から放射性物質が漏えいする恐れがある場合、大容量送水車と放水砲を接続し原子炉建屋に放水します。
これにより放射性物質を地上にたたき落とします。
万が一に備え、放水砲は社員が操作できるよう日々訓練を重ねています。





東京電力通信について、皆さまのご意見をお聴かせください。右の二次元コードから受け付けしています。
お寄せいただいたご意見は今後の広報活動に活かしてまいります。

https://tepco-se.azurewebsites.net/s/kaizensochi

TEPCO
お問い合わせ
東京電力ホールディングス新潟本社
〒950-0965 新潟市中央区新光町11番地7 新潟光ビル
025-283-7461
9:00～17:00（土日・祝日・年末年始除く）